

千日の稽古を鍛とし、  
万日の稽古を練とす。  
能々吟味あるべき  
もの也 五輪書

## 自分の生き方 仕事のやりがい見つけた!

開業時点で平均4.2人の雇用を産み出す

最近、国民生活金融公庫(以下・公庫)は2002年度版「新規開業実態調査」の結果を発表した。この調査は、同公庫の全国支店が2001年4月から同年9月にかけて融資した新規開業企業を対象に、回答があつた1,195件の実態を分析したものである。

長期不況が続く中、新規開業は落ち込んでいるが、この調査は起業準備中の者は無論、関係者に貴重なヒントを与えている。以下、同調査をもとにその概要を編集、解説した。

### 新規開業者の横顔

#### 開業時の平均年齢は40.9歳

開業時の平均年齢は40.9歳で、前回調査より0.9歳若くなっている。年齢分布では50歳以上の割合が22.9%で前回より2.5ポイント低下しているが、その反面、34才以下の開業が31.8%で、前回より2.5ポイント上昇している。男女別の開業割合は、男性87.5%、女性が14.0%で前年の15.3%に比べるとやや低下した。

#### 男性はサラリーマンの開業が93%

開業直前の職業は、常勤の勤務者が全体で88%を占めているが、男女別にみると、男性では常勤のサラリーマンが93%(うち、管理職37.6%)であった。女性の場合は、常勤の勤務者が56.2%で、パート・派遣社員が21.3%、専業主婦10%の順であった。

開業直前の勤務先をみると、上場企業(店頭等含む)や官公庁が13.7%に対して、「それ以外の法人企業」が56%、「個人企業」が28.4%と圧倒的に多く、この両者の従業員規模は、300人未満の中小企業が91.8%、そのうち20人未満の小企業が54.2%を占めている。

### 開業の動機ときっかけ

#### 開業の動機は知識と経験を生かす

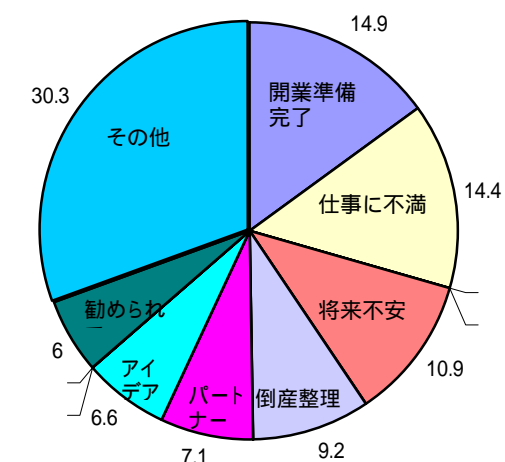
企業家になろうとした動機の第1位は「仕事の経験・知識を生かせる」が24.8%、第2位は「自由に仕事がしたい」17.6%、第3位は「事業経営に興味がある」12.3%で、以下、「技術やアイデアの事業化(11.3%)」、「収入を増やしたい(10.4%)」の順であった。

### 新規開業のきっかけと業種

開業に踏み切った直接のきっかけは、図の通り「資金など開業準備が整った」次いで「勤務先の仕事、内容に不満」第3位は「勤務先の将来に不安」、「勤務先の倒産や人員整理」の順になっている。「勤務先の仕事に不満、将来性に不安、勤務先の倒産、人員整理整理」までを合計すると、実に34.5%になり、最近の厳しい雇用環境を反映している。

次いで、「パートナーが現れた」、「アイデアやチャンスが見つかった」、「友人に勧められて」などであった。

開業した業種の第1位はサービス業39.5%(個人向け27.4%、事業所向け12.1%)、第2位は小売業18.6%、第3位は飲食店15.4%、第4位は建設業8.4%、卸売業(7.2%)、製造業(5.2%)の順であった。



### 開業資金の調達と従業員

#### 開業資金は平均1538万円!

開業費用の平均額は1538万円と前年度調査の1582万円とほぼ同じになった。不動産を購入した企業の平均は3308万円、購入しなかった企業の平均は1235万円になっている。開業費用の分布をみると、1000万円未満の企業が53.7%、500万円未満の企業も24.9%で、比較的少ない費用で開業する企業が多いことがわかる。

#### 自己資金の割合は28.7%、借金は親兄弟が頼り

自己資金の割合は、平均で28.7%であった。自己資金の割合が50%以上の企業は19.3%に止まり、多くの企業は開業費用の半分以上を外部から調達している。

開業費用の調達先は、「親兄弟、親戚」から調達した企業の割合が、不動産を購入した企業で37.5%、購入しなかった企業で29.0%と最も高く、身内が有力な資金調達先になっている。ちなみに、民間金融機関は不動産購入企業が26.8%、購入しなかった企業が8%で、ベンチャー財団等はわずかに0.1%であった。

#### 開業時の従業員は平均4.2人

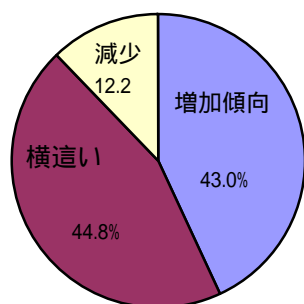
開業時の平均従業員数(経営者本人を含む)は4.2人を雇用している。開業後平均14.8か月を経過した調査時点では5.5人に増え、正社員が1人から1.6人、パート等が1.3人から1.8人に増加している。家族従業員の数を調査時点で見ると、「1人」が37.9%、「2人」が7.4%などで、家族従業員のいる企業は49.0%を占め、配偶者が事業参加している割合は34.7%であった。なお、別収入のある配偶者の月平均収入は、男性経営者の妻は20万円未満が64.4%。女性経営者の夫は、「30万円以上」の層が77.6%に達している。

## 開業後の経営動向

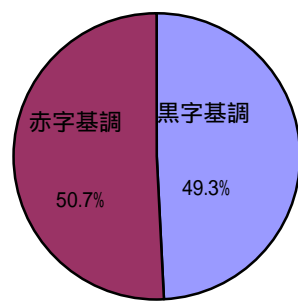
### 収益動向は「赤字基調」が半数

現在の売上状況をみると、「増加傾向」にある企業が43.0%、「減少傾向」にある企業が12.2%、「横這い」が44.8%であった(図参照)。また、現在の収支状況は「黒字基調」が49.3%に対して「赤字基調」が50.7%で、ほぼ拮抗していることがわかる。

売上の動き



収支の傾向



### 経営者の労働時間や休日

経営者本人の労働時間は、「9～10時間」が40.2%、「11～12時間」が23.5%で、平均は10.4時間であった。一方、本人の休日は1カ月「3～4日」が34.1%、「5～6日」が27.1%の順で、平均は4.3日であったが、なかには「休日なし」の猛烈組が10.9%、「7日以上」の余裕組も15.3%あった。

また、経営者本人の別途収入がある割合は、全体で21.8%(「勤務収入11.0%」、「その他の収入9.6%」)、「不動産収入3.4%」で、「別途収入なし」が78.2%に達している。

### 仕事とやりがいの満足度は85.6%

現在の収入を同年代の勤務者と比較した自己評価は、「自分のほうが良い」の割合は24.9%、「勤務者のほうが良い」の割合(39.5%)を下回っている。しかし、「仕事のやりがい」の自己評価は、「自分のほうが良い」とする人が85.6%と高く、自分らしい生き方の評価も「自分の方が良い」が80%に上り、「仕事のやりがい、自分らしい生き方」の視点でみると満足度は極めて高い。

国民公庫の調査は、ウルトラ不況下における中小企業と従業員の実態や新規開業を志す人たちに貴重な示唆を与えている。前者は、勤務先の将来性や倒産・整理が引き金になっており、その大多数が中小企業出身者で占められている実態だ。

後者の新規開業者への示唆は、先ず勤務先で「キャリア」を積むこと。第2は、自己資金は少なくとも三分の一以上を確保し、不足分の調達には親族や公的資金等の長期・低利資金によること。第3は、配偶者や家族の理解と協力があること。第4は、経営知識の不足を専門家によって補うことなどだ。いずれにしても現在の収益状況は厳しいものの、幸い「仕事と自分らしい生き方」への満足度は高いものがある。

【調査概要の編集と解説: 高橋 隆】

## 経済指標

## 全国と群馬の動向

	生産関連指数				雇用		公共投資			
	鉱工業生産指数		大口電力使用量		有効求人倍率		公共工事請負高			
	左・前月比	右・前年同月比	前年同月比				前年同月比			
	全国	群馬	全国	群馬	全国	群馬	全国	群馬		
11月	2.5	13.0	1.7	14.9	4.6	5.8	0.53	0.74	5.8	12.9
12月	0.8	15.3	1.5	12.9	4.8	6.5	0.51	0.7	11.6	30.2
平成14年1月	0.1	11.3	0.5	14.0	4.7	6.2	0.51	0.69	2.0	29.6
2月	1.2	11.5	2.1	14.0	3.3	5.8	0.5	0.70	17.3	1.9
3月	0.8	9.8	1.5	10.3	4.5	5.3	0.51	0.70	18.6	10.3
4月	0.2	6.1	2.1	3.9	1.3	2.1	0.52	0.70	3.8	30.5
5月	4.1	2.0	5.9	2.4	0.5	3.0	0.53	0.69	3.4	21.9
6月	0.2	2.9	11.1	6.4	1	3.8	0.53	0.69	4.8	7.5
7月	0.1	3.8	4.2	1.8	1.3	2.6	0.54	0.7	4.2	10.7
8月	1.4	1.8	3.1	1.6	2.1	0.6	0.54	0.68	13.0	22.2
9月	0.1	5.2	3.8	2.3	2.7	1.4	0.55	0.76	8.3	2.8
10月	0.2	5.4	4.3	0.4	2.6	2.6	0.56	0.79	6.4	21.0
11月	1.6	5.1	1.4	4.1	4.6	1.8	0.57	0.79	8.6	3.5
12月	0.4	6.4				2.9	0.58	0.82	3.2	25.6
平成15年1月	1.5	6.8				3.3	0.60		5.5	23.8
2月										

	個人消費関連指標									
	乗用車登録台数(前年同月比)				大型小売店売上		家電量販店売上		新設住宅着工数	
	前年同月比		前年同月比		前年同月比		前年同月比		前年同月比	
	全国	群馬	登録車	小型車	全国	群馬	全国	群馬	全国	群馬
11月	2.1	2.0	5.0	6.3	0.7	3.1	7.9	3.0	1.2	16.1
12月	0.4	9.2	8.2	11.6	2.6	1.4	9.2	0.7	12.9	5.0
平成14年1月	5.2	1.3	0.7	3.2	2.1	1.1	13.8	0.3	3.5	21.2
2月	1.6	5.7	7.7	0.2	4.7	0.3	14.8	5.9	2.8	0.6
3月	2.6	6.9	6.4	8.4	1.4	4.7	21.2	14.4	6.2	2.1
4月	5.7	5.5	6.3	3.4	2.0	0.9	10.1	4.3	0.6	17.9
5月	8.8	5.9	6.1	5.3	1.6	3.4	1.6	9.9	5.8	3.1
6月	0.5	3.4	7.3	7.6	0.5	6.5	6.9	0.1	0.3	5.3
7月	0.5	2.7	4.8	3.7	5.7	0.4	12.3	11.3	6.7	3.6
8月	5.3	5.1	1.4	16.8	0.1	4.8	1.1	10.3	6.7	15.6
9月	13.6	17.4	14.1	27.6	0.7	3.8	1.9	1.1	5.1	7.6
10月	6.7	0.7	4.1	8.4	2.0	1.0	2.5	1.3	1.8	15.8
11月	5.7	0.4	7.8	17.9	0.1	3.9	2.9	0.7	6.7	21.3
12月	0.3	2.7	0.6	11.1	4.2	1.1	6.5	0.4	3.4	6.2
平成15年1月	4.6	7.9	9.2	4.4					1.7	
2月										

(注)大型店売上、全国は既設店ベース、群馬は新設店を含む。12月の群馬の既設店ベースはマイナス0.4%

【県内の動向】 大型小売店〔新設店ベース〕は、前年水準を上回った。百貨店は2.2%減、スーパーは2.1%増と12ヶ月連続で前年を上回った。家電量販店は昨秋以降、増勢が鈍化、デジタルカメラやDVDなどは堅調に推移しているが、OA機器、冷蔵庫の販売が減少。新車販売は12月は減少したものの、1月は普通車、小型車が堅調、軽乗用車も増加。住宅投資は11～12月はともに前年を上回った。12月は持家が増加したが貸家は減少に転じた。企業生産は輸送機械のほか、化学、電気機械のうち半導体関連が高水準を維持。生コンなど建設資材関連や梱包用ダンボールシートは減産を続けてい

法華経如来神力品

1 経営は人生の道場である

生死を悟り、絶対愛を信念として、進化と向上していこう。  
 経営の目的はたんに売上高の追求に非ず。たんに利益の追求に非ず。  
 人生の道場として生死を悟る場である。  
 ただ、その為には採算された売上高を得、採算された利益を得なければ環境としての道場を維持することはできない。  
 しかるがゆえに  
 採算売上高を得よ、得よ。採算利益を得よ、得よ。  
 それが経営禅の悟りなり  
 採算売上高は採算戦略をもって実現する。  
 採算利益は採算戦術をもって実現する。  
 赤字であるとは採算戦略と採算戦術の不備を原因とするのであるからその原因を改善すればよいだけだ。心までは悩ませないことだ。

2 不滅なる命、不滅なる経営

法華経如来寿量品第16より  
 如来は如実に三界の相は生まれること死すること、若しくは退すること若しくは出ること有ることなく、亦、世に在るもの及び滅する者もなく、  
 実にも非ず、虚にも非ず、如にも非ず、異にも非ざることを知見して  
 三界のものの三界を見るが如くならざればなり。

又道元いわく

「いったい、生きるということは、なにか一点でも加わるところがあるかどうか。あるいは死ぬというときには、なにか一物でもなくなるのかどうか。この生死、もしくは生死の考え方は、いったいどこに根拠をおけばよいのか。これまでいろいろと語ってきたことも、すべてはただの心のあの刹那この刹那のことに過ぎない。あの刹那が山河大地であり、この刹那が山河大地なのである。とするならば、山河大地などというものは、それは有でも無でもない。」

大智度論第八(龍樹釈)によると  
 生死は名字のみあって実なし  
 世界の法の中には実に生死あれども  
 実相の法の中には生死あることなし

光明蔵三昧(内山興正老師)によると、  
 貧しくても貧しからず  
 病んでも病まず  
 老いても老いず  
 死んでも死なず  
 すべて二つに分かれる以前の実物  
 ここに無限の奥がある

仏知見に近づくことである。虚無の中に生きるのではなく、絶望の中に生きるのではなく。宇宙真空の気ともいおうか、涅槃寂靜の気ともいおうか、プラスマイナスゼロの気ともいおうか、天地の大生命力の気ともいおうか。シ-ンとした絶対しじまの気、シ-ンとした絶対積極の気、シ-ンとした生死あるなしの気の中に生きていくことである。不滅の命、不滅の経営を感ずることができる。

桜の花びらは散っても桜の木は散らない  
 経禅一如とはこれをいう  
 経禅一如とは不滅をいう

大宇宙の生命から見たならば  
 桜の花びら(一個の命)は散ったとしても桜の木(大宇宙の命)は散らない。  
 桜の木は枯れやしない、滅しもしない。これを不滅という。  
 散った桜の花びらは大宇宙の進化と向上のこやしとなる。  
 一個の会社は散っても経営という大木は残る。  
 それゆえに不滅である。これが経営の不滅である。  
 経営には死はない、怖れることはない。  
 人は死んだのではない、肉体は滅びても心の中に生きている。  
 ここまでくれば本物である。  
**ひらひらとこぼれる櫻花 死ではあるが不滅なり**

3 わが命、天地のこやしなり、わが命、宇宙の大生命の元素なり

落ち葉はその力をもって根っここのこやしとなる。  
 宇宙の大生命とは雨がふり、風がふき、晴れたり曇ったりする。  
 春は花、夏ほととぎす、秋の月。花鳥風月天地の営みをいう。  
**わが命は天地の命なり**

4 日暮れて道なお遠し

日が暮れてもなお目的地は遠い。  
 経営道もかくの如きなり。完成などない。  
 問題は、日が暮れようが真っ暗闇になろうか、なにになろうか経営の道は進化と向上と創造の中にあって生きて生きて生き抜くことだ。その覚悟があるかどうかだ。  
 たとえ、道半ばでやむを得ないことになろうとも「是非に及ばず」と淡々と淡々と只只と積極を

もってやりつづける。これしかない。この覚悟があるかないかだ。  
この覚悟を決めることが癒しの経営となる。

## 5 癒し心をもって生きる

経営の真っ最中においても、資金繰りの真っ最中においても癒し心をもって生きる。

春に花

夏に鮎

秋に紅葉

冬には夜空の星にさそわれて、宇宙の命のこえをきいてみる。楽しや楽し。

## 6 怒らなければ怒りは出ない

自分が怒らなければ怒りの感情は出ない。誰のせいでもない。

自分が怒るから怒りの気が出てくる、怒りの気が始めにあるから怒りの気が出てくる。怒りの感情が湧き出てくる。

怒るということは自分の感情にあるのだから自分の感情をコントロールすればよい。簡単なことだ。怒りの気を発しなればよい。怒っていると感じたらその怒りを静めればよい。怒らなければ怒りの感情は存在しない。怒りに気づけばよいのだ。

癒しには怒りと悲しみと怖れは禁物だ。

悲しみは悲しみの感情が発生するのだから悲しみを感じたときはその感情を止めればよい。怖れは怖れの感情が発生するのだから恐れを感じたらその感情を止めればよい。その感情を手の平の上に乗せてふっと吹いてしまえ。その感情は消えうせる。

## 7 人を救い、人に救われる

癒しの経営とは事業経営を通じて人間に慈悲を与え、利益を与え、価値を創り、価値を与えることに止めを刺す。

しかも、同時に事業経営を通じて人間から慈悲を受け、利益を受け、価値を受けているということに気づく。

人間は人間を救い、慈悲をもって接するところに人間であるということに止めを刺す。しかも、同時に人間は人間に救われ、慈悲を与えられて生きていくということに止めを刺す。

癒しの経営とは人を救い、人に救われるということを哲学する経営である。

「他己を救うはすなわち自己を救うことなり」  
これが経営禅である。癒しの経営の本體である。

## 8 三点セット経営こそ癒しの経営なり

進化と向上、創造の中に

理想と理念と戦略に立って

知識と技術と真心

即ち経営する心と技術と数字のバランスを取り

創意と工夫と努力する

何かあるのが人生だとわりきって、なにがあっても積極的に生きる

これが癒しの経営の三点セット

次号につづく

## 税 務 下請会社の従業員に対する祝金等は交際費？

運送会社を運営していますが、専属の下請け会社の従業員やその親族に対する慶弔は、当社の慶弔規程に準じて祝金等で支給することがあるが、交際費に該当しますか。

次の費用は、一種の業務委託のために要する費用とみなし、原則として交際費等には該当しないものとなっています。

会社の工場内、工事現場などで、下請企業の従業員がその業務の遂行に関連して災害を受けた場合、当社の従業員に準じて見舞いの金品を支給するために要する費用。

会社の工場内、工事現場などで、無事故等の記録が達成されたことに伴って、その工場内、工事現場などで定期的に働いている下請従業員に対して、当社の従業員とほぼ同一の基準によって表彰の金品を支給するために要する費用。

会社が業務の特定部分を継続的に請け負っている企業の従業員で、専属的に当該の業務に従事している者(検針員、集金人など)の慰安のために行われる旅行や運動会などのために通常要する費用を負担する場合のその負担額。

会社が自社の従業員と同等の事情にある専属下請け先の従業員、またはその親族等の慶弔に際して一定の基準にしたがって支給する金品の費用。

質問の運送会社が支給した事例は、 に該当します。

で注意する点は、「一定の基準」によって支給することですが、これは恣意的な支給を排除するという意味で、必ずしも明文の基準は必要ありません。

要は、その会社にとって慣行となっている基準があり、その支出額が社会通念から相当なものである限り、交際費等から除外されるということです。

### 【総研からのお願い】

確定申告の締め切りが〔3月17日〕近付きました。申告書作成のご依頼にあたっては、資料等に手落ちがないようご準備ください。また、「水道光熱費」「接待交際費」等の領収書は、費目別に整理いただくと迅速に対応できます。

発行日 2003年3月1日  
発行者 (株)中央税法総合研究所  
代表者 茂木健次  
所在地 前橋市本町1-4-4  
損保ジャパンビル 6F  
代表 027-243-4747